

みちとひと

～ダイバーシティ建築の新しいあり方～



1.背景・目的

近年の日本の社会問題として、少子高齢化や介護問題がある。これに伴い、介護離職者の増加がみられ、2018年、2019年に10万人を突破し、2020年に減少したものの約7万人と多くの方が介護を理由に離職している。特に、55歳以上の離職者が多く、熟練従業員や管理職など会社の中核となる人材が辞めている。介護離職者の就業継続が難しかった理由として、①体力的に両立が難しかった②介護は先が読めず両立の見通しが困難だった③自分以外に家族で介護を担う人がいなかったという3つが主な原因になっている。これらから、体力維持と先の見通しが大きな課題となっている。また、介護とは別に子育てを理由に退職する人もいる。妊娠・出産を契機に7割が退職している。その理由として体力が持たなそうだったと答えた人が1番多い結果となった。これらから、仕事と介護、子育ての両立には大きな負担となり、体力が必要であることがわかる。

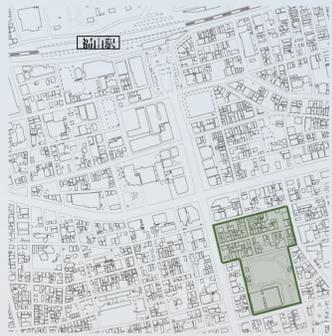
現在は、高齢者や子どもを施設などの社会で面倒を見ているが、依然として家族に負担が大きく、仕事を辞めるケースが多い。介護離職者や子育てをする人は地域や社会からのサポートが必要で、これにより負担が軽減できると考える。以上から、当計画は介護離職者や子育てを理由に辞めた人、元気な高齢者が働ける介護施設と保育施設の複合施設を設け、地域のコミュニティ形成を高める計画提案をすることを目的とする。当施設には、リモートスペースを設け、介護や子育ての両立ができる場所、仕事を辞めても働ける場所を設ける。これは、現在の介護や保育では、足りないものを提案により補い、介護離職者や介護士減少の問題に貢献できるものとする。

2.計画敷地

〒720-0812 広島県福山市霞町1丁目10
ローズナード霞という商店街・ひきまつ通りから中央公園を含めた範囲

選定理由

- ・福山駅から徒歩11分の場所で駅に近いと通いやすい
- ・周辺には、小学校や子ども園等の公共施設があり、子供の利用が期待できる
- ・駅から近い高齢者施設は少ない
- ・中央図書館や中央公園など様々な人が利用する施設が近くにある
- ・地域と社会の交流を作ることができる



3.基本方針

- 1)北側の商店街部分に、高齢者施設と保育施設、商店街を再構成して配置した複合施設を計画する。
- 2)商店街は、営業している店舗のみを残し計画する。
- 3)計画敷地南側には中央公園があるため、敷地を緑地化し公園と一体的な空間にする。
- 4)中央図書館内にも歩行者通路があり1、2階の図書館と共に利用しやすい空間にする。
- 5)既存の商店街は老朽化が見られ、リニューアルする。
- 6)商店街と複合施設、中央公園を融合することで地域のコミュニティ形成を高める。



4.各施設を融合する歩行者空間の必要性

現在は、敷地周辺の歩行者空間の連続性の欠如、利用の少なさ等が問題である。これらの問題解決から歩行者空間を設けるとともに高齢者や子供にとっても歩行しやすさと施設の近くにあることによる利便性、親しみやすさや南側の公園広場との連続性、外周が廊下の歩行者空間で構成されているローズコムとの連続性等から、本計画に歩行者空間をより認識して利用しやすいようにするために歩行者空間の顕在化が必要と考えた。



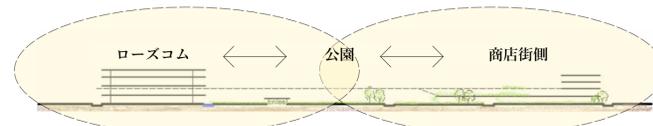
5.ダイアグラム

デッキで一体的な空間を構成

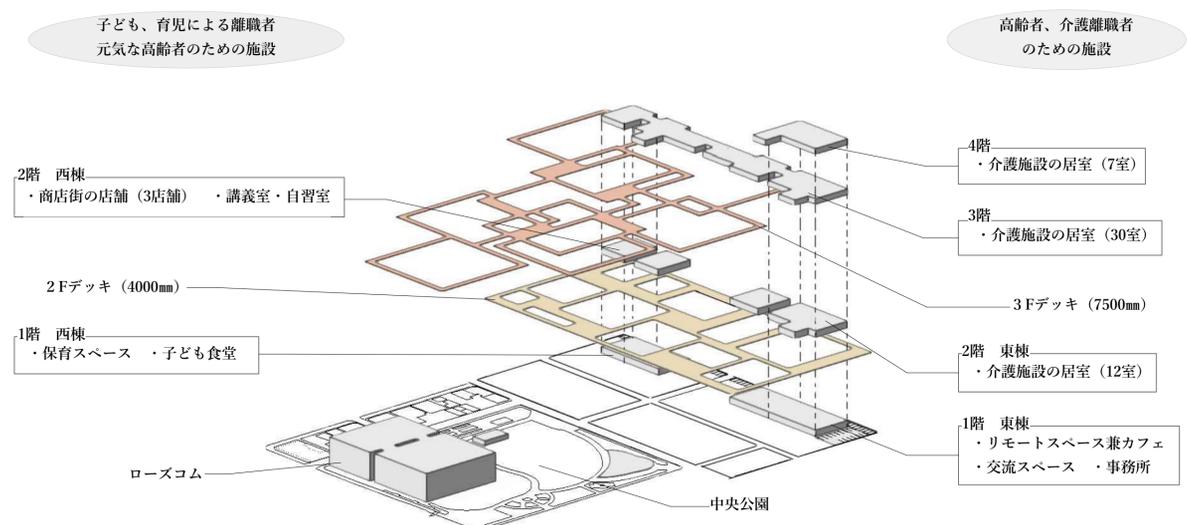
立体的な公園の実現

人々の繋がりを期待できる

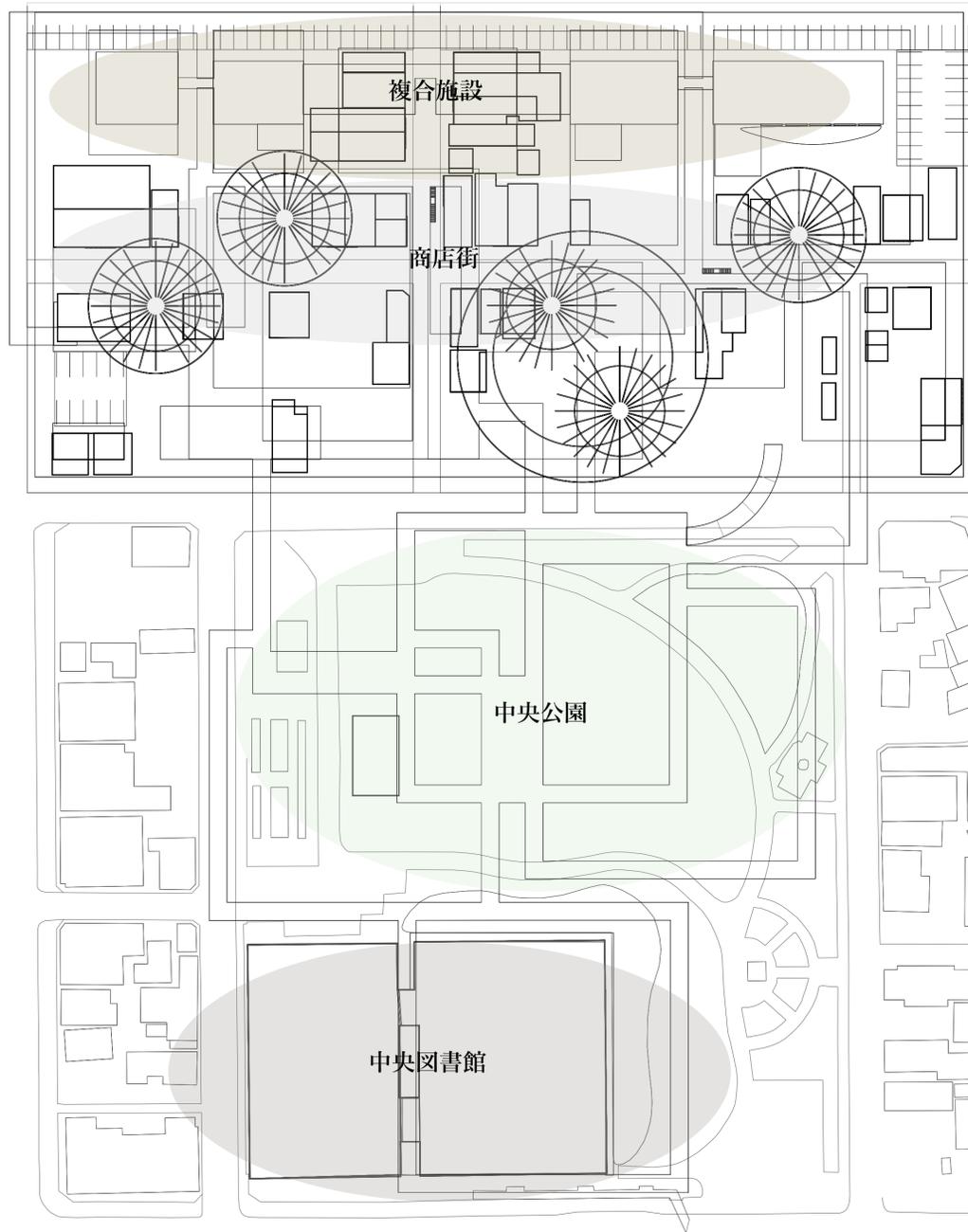
3階デッキによって、複合施設と中央公園、ローズコムの3階が繋がっている。ローズコムの3階、4階には会議室があり、そこで子育てなどの様々なイベントが行われている。このイベントに施設を利用する人々が参加しやすい環境を整えるためにデッキで繋ぐ。また、立体的な公園にすることで人々の気配を感じることができ、それを見たことによって歩きたいという意欲の向上と賑わいを目で見ることができ、寄ってみたいという人が増え利用者が増えることが期待できる。



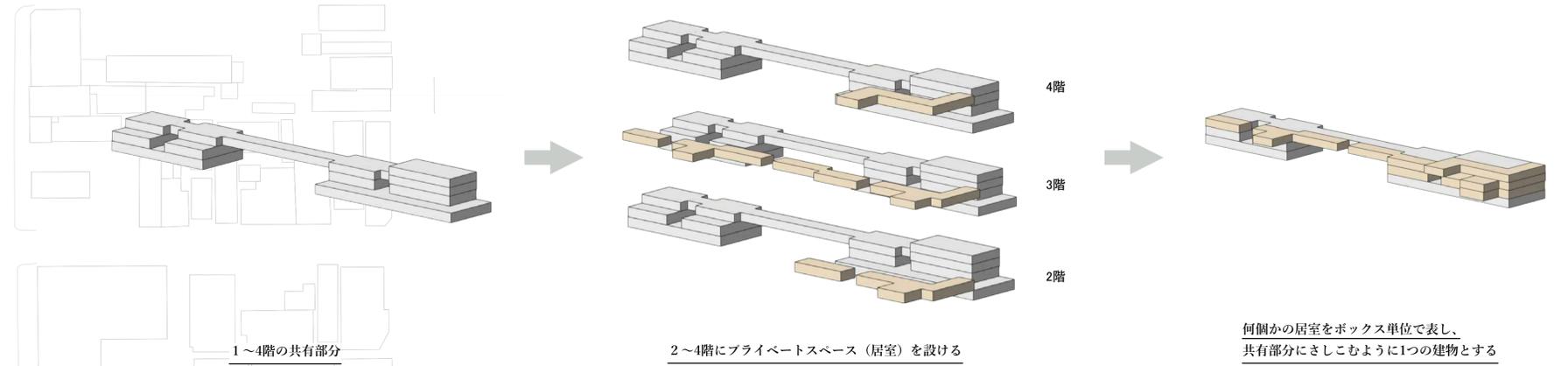
6.各階構成



7.配置図 (S=1/750)



8.施設のダイアグラム図



9.平面図 (S=1/750)



10.内観パース



11.商店街

計画敷地内の商店街は、2つの商店街が交わっている。これらの商店街は人通りが少なく、営業していない商店街が多いため、商店街は、ローズナード街とひさまつ商店街の2つを営業している店舗を残しながらリニューアルする。1階はもちろん2階にも店舗を設けることで歩行デッキを活用して高齢者や図書館を利用した人が気軽に立ち寄れる空間にする。商店街のアーケードは部分的に4か所設け、囲われすぎない空間を作り、歩行デッキや中央図書館の中から商店街の様子を見れるようにし、人の気配を感じ活気のある商店街になることを期待する。
また、介護施設と同じ格子を使うことで、一体感を持たせる。



12.夜景パース



この夜景を見ながら過ごす
高齢者や介護離職者が
少しでも癒しの場になる空間に

